

皿倉・河内の大自然で遊ぼう

はじめに

戦後、日本人は高度経済成長の時代からバブルの全盛期までの間、現在の社会を築くために私生活を犠牲にして働きつづけてきた。しかし、バブル崩壊後、経済成長や企業の発展のために働く時代に終わりを告げ、そのような社会の経済状態に合わせ人々は私生活の質の向上を求めるようになってきている。そこで、今回私生活の質の向上を目的とした街づくりのひとつとして、子供からお年寄りまで充実した余暇を過ごすことのできる街づくりを提案したい。

対象地域

近年、環境保全の動きが強まる中、同時に世間では自然に対して癒しを求める傾向も見受けられる。そこで、今回のテーマとして「自然の中で余暇を過ごせる空間」をかかげて提案をしたいと思う。提案の対象区域として私の在住する北九州市に位置する皿倉山及びその南側にある河内貯水池とその周辺を選定した。皿倉山近辺は一部国定公園に指定されるなど非常に自然が豊かであるため、自然の中で余暇を過ごせる空間として本提案によく適合した区域であると思われる。

現況と課題

皿倉山は夜景のすばらしさで有名であるが、そのほかにも散策路や昨年開設された人工スキー場、アーチェリー場やキャンプ場といった施設も設けられている。また、河内貯水池周辺にはサイクリングロードや河内温泉などもあり、これらの区域は、現在でも余暇を過ごすスペースとして利用されている。しかし、私の周囲の人間に聞いたところ一年に一回利用する程度であり、十分に活用されていないのが現状のようである。その原因として下記のようないくつかの課題を想定した。

- ・ 当該地区へのアクセス

バスは運行されているものの便数が少なく、また、駐車場や道路の整備が十分でなく利用者を遠ざける要因となっているものと思われる。

- ・ 施設

いくつかの施設が点在しているものの施設間の移動が車がないと不便であり施設が孤立化してしまっている。一方、皿倉山の北側から南側へは未舗装路があるのみで車での走行は厳しく、皿倉地区と河内地区は切り離された空間となっている。

- ・ 皿倉山のイメージ

現在皿倉山のイメージとしては、夜景の名所としてのイメージが強く利用者も夜景を見るため利用者の方が多いようであり、昼間の余暇の空間としてのイメージは薄いものと思われる。

私の個人的な主観から挙げた課題であるが、以上のような課題をクリアすれば当該区域はよりいっそう余暇の空間として、人々に親しまれるのではないかとと思われる。

対策

前項に挙げたそれぞれの課題に対する対策を考案した。

・当該地区へのアクセス

バスや歩行者などが安心して利用できるようにするために、当該地区周辺の道路の拡幅や駐車場の設置、歩道の整備などが有効であると考えられる。また、子供やお年寄りでもアクセスできるように、利用者の増えそうな休日には臨時バスを運行するなどして対応することが必要である。

・施設

施設の孤立化への対応策としては、シャトルバスの運行が挙げられる。点在する施設を結ぶルートで運行することで、施設間の移動手段が確保できる。また、皿倉山南側にある未舗装路を自然や景観を考慮しつつ車で走行できる程度に整備することにより、河内貯水池方面施設の利用も同時に可能になる。さらに、新しい施設、例えば子供向けに自然を活用したアスレチック施設や自然の中を探検することのできる公園、お年より向けに四季折々の植物を鑑賞できるようなくつろぎのスペース等を設けることで余暇を過ごす魅力ある空間としての幅も広がるものと思われる。

・皿倉山のイメージ

皿倉山に対する固定観念を解消するという課題は、ソフト的なもので容易に解決できる課題ではないが、夜景はもちろんあふれる自然もそのままに皿倉山をレジャースポットとして活用するといったような名目で上にあげたような対策をひとつのプロジェクトとして講ずることにより、人々の関心も高まるであろうし、新たなイメージを構築することも可能かもしれない。

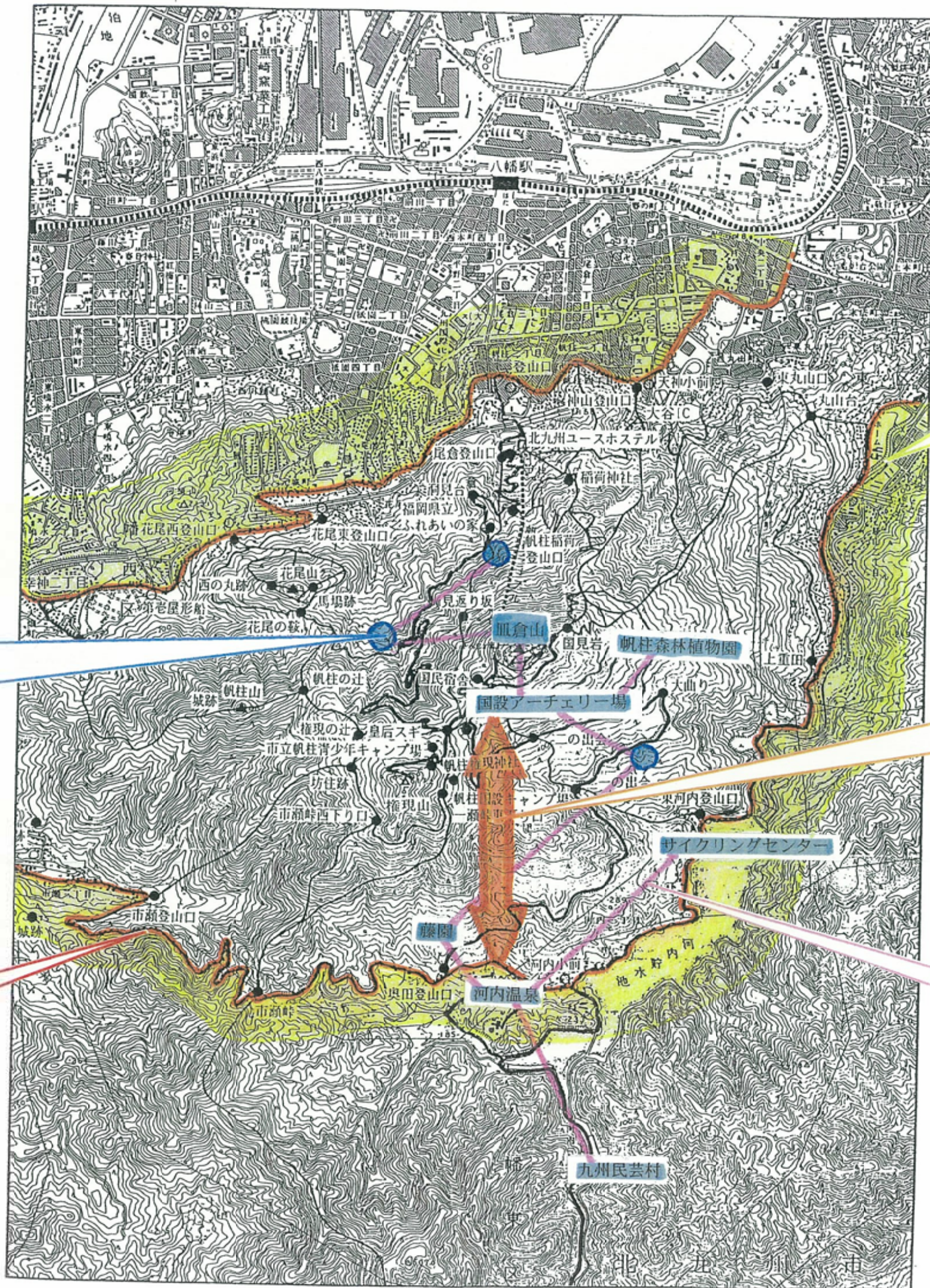
まとめ

経済が低迷し、明るい話題の少ない現代社会、そんな中余暇だけでも楽しく過ごせる場所があればと思い提案に至ったが、北九州の市民だけでなく九州の人々にも注目されるような場所が自分の住む北九州市にでき、ひいては街の魅力アップ、活性化につながることを期待している。

余暇を過ごすための

皿倉・河内地区

構想図



アスレチック施設や
自然の中を探検できる公園、
植物を鑑賞できるくつろぎの広場など
新たに施設を設置し余暇を過ごす空間
として幅をもたせる。

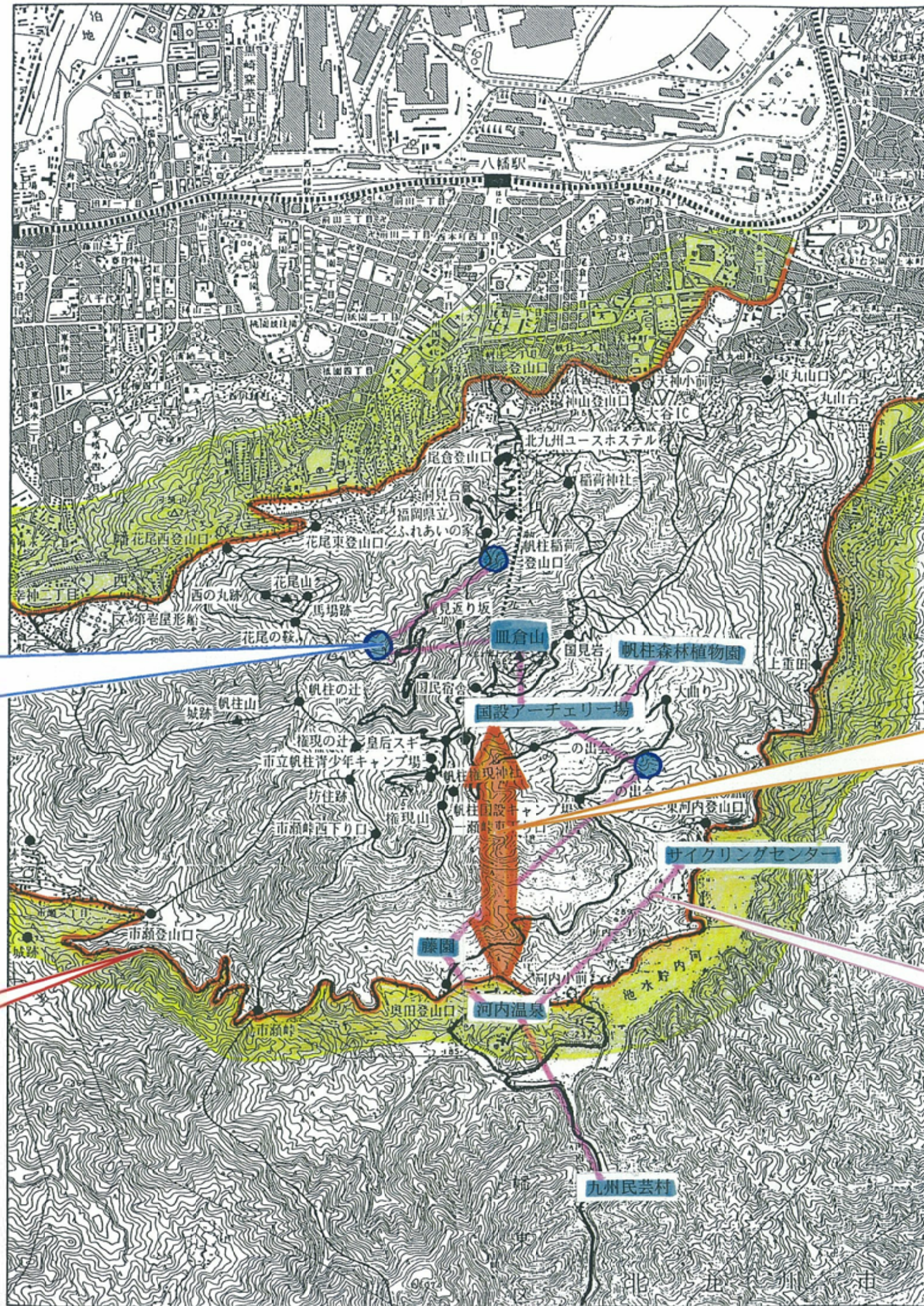
皿倉山周辺において、
駐車場の設置や道路・歩道の
整備により利便性や安全性を
向上させる。

分断された皿倉地区と河内地区を
つなぐために、未舗装路を整備し
車の通行を可能にする。

休日、臨時バスを運行することにより
アクセス手段を確保する。

シャトルバスを周回させ、
孤立した施設をむすび
複数の施設の利用を可能にする。

余暇を過ごすための
皿倉・河内地区
構想図



アスレチック施設や
自然の中を探検できる公園、
植物を鑑賞できるくつろぎの広場など
新たに施設を設置し余暇を過ごす空間
として幅をもたせる。

皿倉山周辺において、
駐車場の設置や道路・歩道の
整備により利便性や安全性を
向上させる。

分断された皿倉地区と河内地区を
つなぐために、未舗装路を整備し
車の通行を可能にする。

休日、臨時バスを運行することにより
アクセス手段を確保する。

シャトルバスを周回させ、
孤立した施設をむすび
複数の施設の利用を可能にする。